

入間市の花、木、鳥

(昭和56年4月制定)

市の花……「茶の花」

市の特産物である「狭山茶」を象徴するにふさわしい花である。茶の若葉の季節は春、茶の花は秋に咲く。



市の木……「ケヤキ」

市内に多く自生している木であり、落葉樹で新緑の季節、紅葉の季節には人々を楽しませ、夏には心地よい緑影と緑風を与える。



市の鳥……「ヒバリ」

武蔵野の空に舞う、のどかな感じのある鳥「ヒバリ」。毎年初夏になると、さえずりながら大空へ舞い上がる姿は、広く市民に親しまれている。



入間市の歌

(一)

風さわやかな 入間野に
茶園^{さえん}のみどり 輝いて
望みひろがる ふるさとよ
ああ 美しい 入間市に
住むしあわせを わけあおう

(二)

伸びゆくまちに 自治映えて
寄せ合う英知 結ぶ手に
若さみなぎる ふるさとよ
ああ 和^なやかな 入間市に
文化の花を 咲かせよう

(三)

秩父の峰を 仰ぎみる
けやきの空に 幸を呼び
夢もあふれる ふるさとよ
ああ 安らぎの 入間市を
豊かな愛で はぐくもう

いるま音頭

(一)

ハアー武蔵野の 深い緑の懐^{ふところ}に
白い茶の花 香^{かほ}る里
愛の歩道を 二人で行けば
招^{まね}く可愛い 揚げひばり ソレ
みんな輪になつて 踊ろじやないか
いるま音頭で ソレソレ ヨーイトナ

(二)

ハアー秩父嶺^{ちちぶね}を 遠く仰いで育^{はぐ}んだ
瞳^{ひとみ}あかるい その笑顔
次の世代の郷土^{きょうど}をになう
若い仲間が 手をむすぶ ソレ
みんな輪になつて 踊ろじやないか
いるま音頭で ソレソレ ヨーイトナ

(三)

ハアー青空に 伸びるケヤキの梢^{えだ}には
夢が大きく ゆれている
今日も栄える 町並み染^そめて
恵み豊かな 陽^ひが昇る ソレ
みんな輪になつて 踊ろじやないか
いるま音頭で ソレソレ ヨーイトナ

(四)

ハアー入間川 心やすらぐ せせらぎは
いつも伴奏 唄^{うた}ってる
古い歴史と 進んだ文化
現^{いま}在^{ざい}と過^{むか}去^しを つなぐ川 ソレ
みんな輪になつて 踊ろじやないか
いるま音頭で ソレソレ ヨーイトナ